



2011年8月24日

<報道関係各位>

一般社団法人 日本化学工業協会

c-LCA(カーボンライフサイクル分析)手法のガイドラインを年内にも策定

一般社団法人 日本化学工業協会(以下、日化協)ではこのほど、地球温暖化の原因のひとつである温室効果ガスの排出削減における化学産業の貢献度について、広く一般社会への認知拡大および理解促進を図るため、c-LCA(カーボンライフサイクル分析)手法のガイドライン策定に着手しました。

【背景】

世界の化学工業協会の団体であるICCA(国際化学工業協会協議会)は、日化協が中心となって、2009年に「温室効果ガス削減に向けた新たな視点/化学産業が可能にする低炭素化対策の定量的ライフサイクル評価」と題する報告書を作成・公表しました。その中で、原料の採掘から製造・利用・廃棄に至る化学製品のライフサイクルの各過程で排出されるCO₂排出量を定量化し、化学製品の利用によって削減されるCO₂量を評価するc-LCAという論理的で実証的な評価法を紹介し、グローバルなCO₂削減に化学産業が大きく貢献していることを明らかにしています。

こうしたc-LCAという評価法に関するグローバルな普及活動に引き続き、日化協では、2010年より、日本国内における具体的な最終製品の使用によるCO₂排出削減量の定量化に取り組みました。その結果、2011年7月、化学産業界によるCO₂削減への貢献を報告書としてまとめました。具体的には再生可能エネルギー、軽量化・低燃費化、省エネルギー分野において、太陽電池、炭素繊維複合材料、LED照明、住宅用断熱材など9つの事例のc-LCA評価を実施し、結果を公表しています。

【ガイドライン策定の取組み】

c-LCAのように製品のライフサイクル全体を考慮した評価法は、二酸化炭素の排出削減効果を社会に示す指針として業界内外で注目され始め、社会からの理解も得られつつあります。そうしたc-LCA評価に関する社会の理解と信頼をさらに高めるべく、日化協では評価方法の整理、統一化に向け検討を開始しました。具体的には、日化協内に設置したLCAワーキンググループが中心となり、CO₂削減貢献の定義、比較対象製品・技術の選定ルール、CO₂排出削減貢献量の定量評価方法、使用データの信頼性・透明性確保の方法などを検討することにより、年内にも評価手法のガイドラインを策定します。

日化協では策定するガイドラインを基に会員各社への利用を呼びかけ、業界としての評価手法の普及に努めていきます。また、本ガイドラインを有効活用し、先に公表した9事例に加えて対象製品を拡大してc-LCA評価を進めることにより、日本発信による国際貢献事例及び素材ベースの事例評価等c-LCA評価事例のさらなる拡充を図っていきます。

以上

■本件に関するお問い合わせ先■

一般社団法人 日本化学工業協会・広報部 井上／高橋／小林

TEL: 03-3297-2555